

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月
小松島市教育委員会

1. はじめに

令和4年4月19日、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果概要について、小松島市の児童・生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の特徴的な傾向と今後の取組について次の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

※「全国学力・学習状況調査」は、特定の教科の学力や教育活動の一側面について測定したものであります。本市では、本調査結果が学力全体を評価したものと捉えられ、学校間の序列化や過度な競争につながる恐れや、個人が特定される可能性があるため、学校ごとの数値結果（正答率や実数）の公表は行っておりません。

2. 調査概要

(1) 実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査実施人数

小松島市 小学校 第6学年の児童 263人

小松島市 中学校 第3学年の生徒 252人

(3) 実施内容

① 教科に関する調査

小学校：国語 算数 理科

中学校：国語 数学 理科

② 質問紙調査

学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関することを問う

3. 調査結果

(1) 教科全般に係わる調査結果について

【小学校】

国語	<p>○全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領の内容としては、「知識及び技能」は、全国平均を上回っている。「思考力、判断力、表現力等」は、下回っている。・評価の観点としては、「知識・技能」が全国平均を上回っている。「思考・判断・表現」は下回っている。・問題形式については、「短答式」は上回り、「記述式」「選択式」は下回っている。
算数	<p>○全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領の領域としては、「変化と関係」の正答率は全国平均を下回り、他の領域は全国平均と同程度である。・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも下回っている。・問題形式としては、「記述式」の正答率が全国平均を上回っている。
理科	<p>○全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領の領域としては、「エネルギー」「粒子」「生命」は全国平均と同程度である。「地球」は下回っている。・評価の観点としては、「知識・技能」は全国平均を上回っているが、「思考・判断・表現」は下回っている。・問題形式としては、「記述式」の無回答率が高い。

【中学校】

国語	<p>○全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領の領域等では、「書くこと」は全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均を下回っている。・評価の観点としては、「思考・判断・表現」が下回っている。・問題形式としては、「選択式」では全国平均と比べると上回っている。「記述式」は下回っており、無回答率も高い。
----	--

数 学	<p>○全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の領域では、「数と式」は全国平均と比べて上回っている。「関数」は同程度で、「図形」「データの活用」は下回っている。 ・評価の観点としては、「知識・技能」は全国平均を上回り、「思考・判断・表現」は下回っている。 ・問題形式としては、「短答式」は全国平均を上回っている。「選択式」「記述式」は下回っている。
理 科	<p>○全体の正答率は、全国の正答率を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の領域としては、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」それぞれ全国平均を下回っている。 ・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも全国平均を下回っている。 ・問題形式としては、「短答式」は全国平均を上回っている。「記述式」は、無回答率が高い。

(2) 各教科における特徴と改善策

【小学校】

国 語	<p>漢字を正しく書くこと、大きさや配列に注意して書くことの正答率は、全国平均より高い。しかし、文章の表現の効果を考えること、文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えることについては課題がある。</p> <p>文章の表現の効果については、表現方法に着目して読むことを指導したい。また、文章を書く活動において、書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることを大切にして、児童が「推敲してよかった」と実感が得られるように働き掛けたい。</p>
算 数	<p>「数と計算」については正答率が高く、基礎的・基本的な知識や技能の定着が見られる。基礎的な学習の定着を、今後も継続していきたい。</p> <p>「変化と関係」の領域で、数量が変わっても、割合は変わらないことを理解していることにおいて課題が見られる。飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらない等、日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにしたい。</p>

理科	<p>実験器具の名称や正しい扱い方を問う問題は、正答率が高く、基礎的・基本的な知識や技能の定着が見られる。</p> <p>実験結果から問題に対するまとめを検討することや、自然の事物・現象から得た情報を他者の気付きの視点で分析・解釈し、自分の考えを持つことに課題がみられる。指導に当たっては、実験で得られた結果を予想と照らし合わせ考察について検討したり、事実について話し合う中で自分や他者の気付きを捉え、差異点や共通点を基に問題を見いだしたりする活動が考えられる。</p>
----	---

【中学校】

国語	<p>「読むこと」において、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることや、場面と場面、場面と描写を結び付けて内容を解釈することに課題が見られる。</p> <p>文学的な文章を読む際には、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする活動が考えられる。また、話の展開を捉えて内容を解釈し、それぞれの考えを伝えあう活動が考えられる。</p>
数学	<p>素因数分解や一次方程式の正答率は全国平均より高く、数学的な技能の定着が見られる。</p> <p>事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することにおいては課題が見られる。様々な問題において数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを解決するための「用い方」について考え、説明できるように指導することが考えられる。その際、日常生活や社会の事象における問題について、教科等横断的な視点で学習場面を設定することも考えられる。</p>
理科	<p>観察結果や実験結果から分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことや、実験結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して実験の計画を改善することについて課題が見られる。</p> <p>改善策としては、具体例を示して「根拠となるもの」を書く部分と課題を意識して「考えたことや判断したこと」を書く部分を区別しながら学習活動を行うことが考えられる。また、実験の計画を再検討して改善する学習場面を設定することも考えられる。</p>

(3) 生徒質問用紙の特徴

生活習慣や学習環境等に関する調査結果（一部抜粋）

※数値は「どちらかといえば」「時々」を含む割合を%で示したものである。

番号	質問事項	小学校		中学校	
		本市	全国	本市	全国
1	朝食を毎日食べていますか。	95.1	94.4	91.7	91.9
2	自分には、よいところがあると思いますか。	81.4	79.3	85.3	78.5
3	将来の夢や目標を持っていますか。	85.9	79.8	67.1	67.3
4	学校に行くのは楽しいと思いますか。	87.5	85.4	83.7	82.9
5	人が困っているときは、進んで助けていますか。	91.2	88.9	90.5	88.4
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.1	96.8	99.2	96.4
7	普段（月曜日から金曜日）、1日1時間以上勉強をしますか。（学習塾、家庭教師、インターネット活用含む）	51.3	59.4	71.0	69.5
8	読書は好きですか。	74.2	73.1	55.6	68.2
9	普段（月曜日から金曜日）、1日30分以上読書をしますか。	33.8	36.4	17.5	27.3
10	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	42.6	52.7	25.0	40.0
11	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	54.0	51.3	32.9	40.7
12	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を1週間に1度以上は使用しましたか。	91.6	83.2	21.5	80.6
13	授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を1週間に1度以上は使用しますか。	81.0	76.1	13.5	71.7
14	昨年度までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	76.1	77.3	72.6	79.2
15	学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	83.2	79.8	74.6	78.7

(4) 考察

①基本的な生活習慣、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等(質問事項1~6)

「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」について、小学校も中学校も全国平均を上回っている。今後も、各学校の教育活動全体を通して、自尊感情や自己肯定感を高める取組、人権教育を核とした取組を続けていきたい。

②学習習慣、学習環境等(質問事項7~9)

「学習時間を1日あたり1時間以上している」割合は、全国平均と比べて、小学校は下回り、中学校は上回っている。「30分以上本を読んでいる」割合は、小学校も中学校も全国平均を下回っている。今後も、家庭学習や読書の定着化を図る取組が必要である。

③地域や社会に関わる活動の実施状況等(質問事項10~11)

「地域行事に参加している」割合が全国平均と比べて低い。しかし、「地域・社会をよくするために何をすべきかを考える」という項目では、小学校では全国平均を上回っている。今後も地域との連携や社会教育活動など大きな枠組みでの取組を進めていきたい。

④ICTを活用した学習状況(質問事項12~13)

PC・タブレットなどのICT機器の活用については、「昨年度までに受けた授業で、1週間に1度以上は使用したか」「授業中に自分で調べる場面で、1週間に1度以上は使用するか」の回答で見た場合、小学校では全国平均を上回っているが、中学校は下回っている。中学校向けのデジタル教材を充実させ、今後もICT活用を進めていきたい。

⑤主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況(質問事項14~15)

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」については、小学校も中学校も全国平均を下回っている。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小学校は全国平均を上回り、中学校は下回っている。全国的にみると、調査開始年度と比べ、増加傾向にある。今後も授業改善を重ね、学習を充実させたい。

4. 今後の小松島市の取組

- 社会に開かれた教育課程の実現のために、外部人材活用事業の効果的活用に努める。
- コミュニティスクール(学校運営協議会)や地域学校協働活動の効果的な活用を図る。
- 各校で調査結果分析を行い、改善策の検討をし、授業改善に取り組む。
(積極的な ICT の活用や話し合い活動の充実)
- 言語活動の充実を図るため、読書環境を整え、読書習慣の定着を図る。
- 個人面談や各種便り等を通して家庭との連携を深め、基本的な生活習慣や家庭学習の充実に取り組む。
- 市学力向上推進担当者研修会を開催し、市全体で学力向上に取り組む。